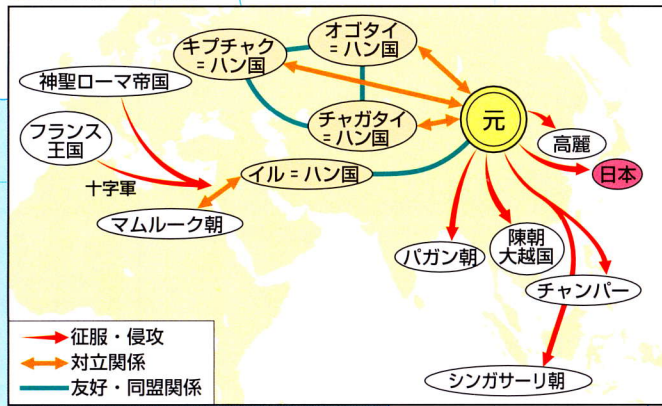




●13世紀の概観



- ①13世紀は「モンゴルの世紀」。70年にわたる征服戦争の結果、ユーラシアの東西(農耕と遊牧世界)にまたがる大帝国が出現
- ②「モンゴルの平和(パックス=タタリカ)」による活発な東西交流
- ③マムルーク朝はモンゴルと十字軍の拮抗に対抗
- ④第4回十字軍以降、北イタリア諸都市が繁栄

世紀	12	13	14
キプチャク=ハン国	キプチャク=ハン国	キプチャク=ハン国	キプチャク=ハン国
オゴタイ=ハン国	オゴタイ=ハン国	オゴタイ=ハン国	オゴタイ=ハン国
チャガタイ=ハン国	チャガタイ=ハン国	チャガタイ=ハン国	チャガタイ=ハン国
イル=ハン国	イル=ハン国	イル=ハン国	イル=ハン国
マムルーク朝	マムルーク朝	マムルーク朝	マムルーク朝
神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国	神聖ローマ帝国
フランス王国	フランス王国	フランス王国	フランス王国
元	元	元	元
高麗	高麗	高麗	高麗
日本	日本	日本	日本
シガサリ朝	シガサリ朝	シガサリ朝	シガサリ朝
陳朝	陳朝	陳朝	陳朝
バガン朝	バガン朝	バガン朝	バガン朝
カスナ朝	カスナ朝	カスナ朝	カスナ朝
コゴル朝	コゴル朝	コゴル朝	コゴル朝
金(元)	金(元)	金(元)	金(元)
宋	宋	宋	宋
高麗	高麗	高麗	高麗
平安時代	平安時代	平安時代	平安時代
鎌倉時代	鎌倉時代	鎌倉時代	鎌倉時代
室町時代	室町時代	室町時代	室町時代

→ ヴェネツィア領  
→ 第5回十字軍の進路(1228~29)  
→ 第6回十字軍の進路(1248~54)  
→ マルコ=ポーロの旅行路  
→ イブン=バットゥータの旅行路

毎年9月第1日曜日に行われる時代競技のパレード



「水の都」ヴェネツィア（「アドリア海の女王」）

『世界の記述』（『東方見聞録』）—「色目人」マルコ・ポーロの見た世界—



マルコ・ポーロ  
シエナ市庁舎モザイク画

●解説 ヴェネツィアは第4回十字軍(1204)で多大な利益を獲得したが、やがてビザンツ帝国と結んだジェノヴァに東地中海貿易から締め出されたため、モンゴル帝国に直接向かおうとした商人も現れた。マルコ一行はそんな1271年中国へ出発した。  
**都市の規模**



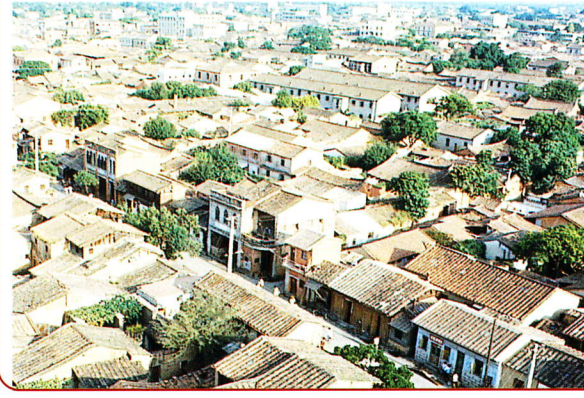
大都 東西約7km 人口約100万人

**夏の都 上都(シャンドウ)**  
ここには一切を竹材で仕上げた宮殿がある。柱は金箔と絵画で装飾されており、移動でき、また解体される。

**冬の都 大都(カンパルク)**  
カーンの宮殿の広間は金銀箔をはりつめて、6000人は収容できる。これ以上のものを設計できる者は世界にいない。

**杭州(キンザイ)**  
職人組合が12あり各組合には家内工業が12000ずつある。市内の街路は敷石や煉瓦で舗装されている。

**グジャラート(インド)**  
住民は偶像を崇拜し、胡椒や生姜、インド藍の産額が多い。綿花も多い。住民には極悪な海賊がいる。



●解説 マルコが帰国した翌1296年、ヴェネツィアはジェノヴァ(ビザンツと友好国)との戦争に敗れマルコは捕虜となった。獄中で体験談は「ほら吹き」の異名をとった。ピサの文人ルスタチアーノがマルコの口述を筆にしたのが『世界の記述』である。

●「黄金の国ジパング」 「ジパング」の宮殿の屋根や床は純金でできている。



中尊寺金色堂(輪手島、924年建立)



フビライ=ハンの遠征  
モンゴル帝国の最大版図元と4ハン国の境界



「てつほう」  
火薬をつめた鉄の玉に火をつけて飛ばす

元寇 「蒙古襲来絵詞」

当時の日本

1268年フビライは高麗の使者を通じ、鎌倉幕府に朝貢を求めたが、幕府は返書を送らなかった。  
1274年に元・高麗混成軍が博多湾に上陸、集団戦法と新兵器で武士団を苦しめた。1281年にも元・旧南宋混成軍の14万が襲来(屯田兵として上陸予定していた)。しかし2度とも暴風雨のため船団は壊滅的打撃を受けた。3回目は元の内紛と中国や各地の民衆の抵抗で実行されず、その後仏教中心の文化交流が日本と続いた。